

配置計画とトータルデザイン

文——伊東孝 Takashi Kobayashi ● 日本大学理工学部社会交通工学科 特任教授
写真——西山芳一 Hoichi Nishiyama ● 土木写真家



白鬚橋・帝都の北門

南門の永代橋と同じバランスト・タイドアーチの白鬚橋。違いは、永代橋のアーチが鋼版なのに対し、白鬚橋はトラス構造である。右岸側は、東京市浅草区と東京府北豊島郡との郡市境であった。

世界には「水の都、橋の都」と冠称できる都市が多い。イタリアのヴェニス、中国の水郷鎮、オランダのアムステルダム、ロシアのサンクトペテルブルグ……。シカゴやニューヨークなどは「橋の都」といえる。しかし東京の下町の橋のように、全体的な都市構造との文脈の中に位置づけられた橋の配置計画は、世界中の都市をみわたしてもどこにもない。

下町の橋は、周知のように関東大震災後の帝都復興事業で形づくられた。隅田川は、帝都を代表する河川である。それゆえ第一橋梁の永代橋や第二橋梁の清洲橋の設計は綿密な計画のもとに架設された。永代橋に立って下流側を望むと、今でこそ目の前にリバーシティ21の高層ビル群が立ちほだかっているが、復興当時は手前に佃島を配し、その向こうには東京湾の茫漠たる景色が広がり、天気の良い日は遠く房総半島を望むことができた。このような場所には、荘

う。右岸地区（中央区や千代田区）にはアーチ橋が、左岸地区（江東区や墨田区）にはトラス橋が配された。右岸地区のアーチ橋は外堀の近くはコンクリートのアーチ橋を架設した。しかしコンクリートの打ち放しではなく、外堀の石垣にあわせて石張りとした。外堀より離れた神田川は、スチールのアーチ橋を架設した。左岸地区は、中小河川や運河の交差点部にトラス橋を、その他の場所には桁橋を架設した。

問題は、なぜこのように橋のタイプを変えたのかにある。復興事務局がまとめた『帝都復興事業誌』にそのヒントがある。「美観を必要とする地点にあつては、…、拱橋（アーチ橋のこと）の如きを選んで風致を添えしめた」とある。これから、右岸地区の皇居や銀座地域は風致や美観を重視し、左岸地区は風致を重視しなかったことになる。これには、当時の橋の美意識と左岸地区の土地利用が大きく関係している。

明治の中頃からトラス橋は橋の部材が多いため（垂直材や梁の部材までトラス材）、鳥籠の中にいるようでよくない、圧迫感がある、橋梁内外の眺望を阻害するなどの理由で嫌われ、アーチ橋が市街地環境に調和すると好まれた。また江東区・墨田区は大正八年の都市計画法で工業地域に指定されていた。以上のような理由でトラス橋が架設されたのである。

で、何故に「河川の交差点部なのか」。河川の交差点部は、道路の交差点といえる。当時は舟運が



神田川にかかる美倉橋

神田川も江戸時代に本郷台地を切り崩してつくられた人工河川（運河）。上流の和泉橋から下流は川幅が一定なので、同一タイプの橋が架設された。橋の個性化は、親柱や高欄、照明など、構造とは無関係のところで図られた。

重で力強い男性的なアーチ橋がふさわしいと考えられた。第二橋梁の清洲橋は、これとは対照的に優美な下垂曲線を描く女性的な吊橋が架設された。男性的な橋と女性的な橋とで、対比的に帝都の入口を演出したのである。

これ以外にも隅田川の橋は、それぞれ地域環境にふさわしいタイプとデザインの橋が架設され、復興当時から「橋の博物館」の異名をもち、橋見物の遊覧船まで就航した。

隅田川の左右の地域でも、橋のタイプがちが

復興橋梁のシンボル橋配置図

復興橋梁は全部で425橋架設された。図はこのうち桁橋以外の橋をプロットした図になっている。桁橋以外は景観的に目立つので、ここではシンボル橋と総称している。



水戸徳川庭園跡を残す隅田公園

隅田公園は、隅田川の両岸にあった遊水地を埋立ててつくられた。わが国最初のリバーサイドパークで、公園内にはプロムナードや、陸上競技場・水泳場・ボート溜まりなどのスポーツ施設もつくられた。

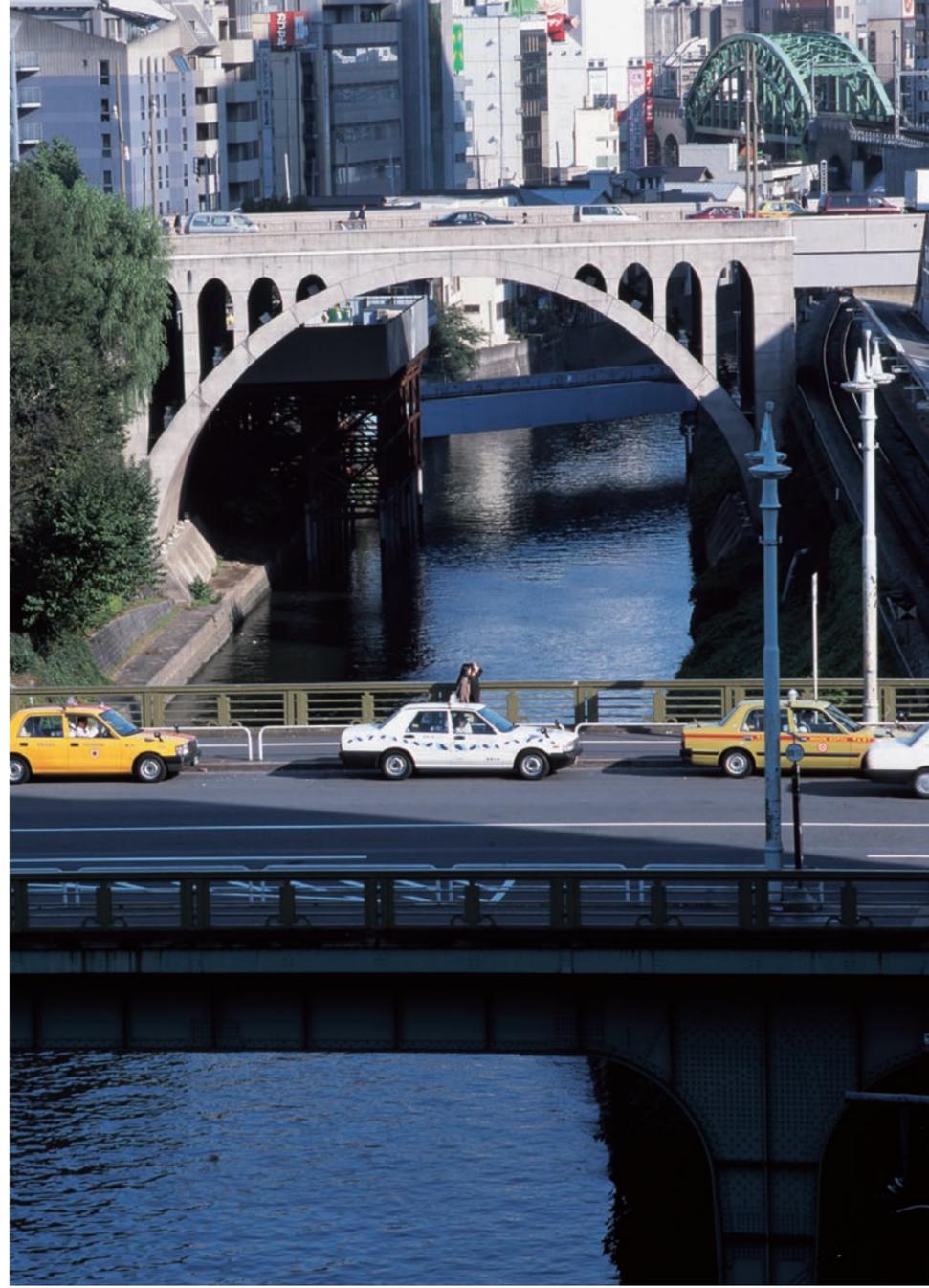


復興小学校と隣接する復興公園

九段小学校と上六公園。不燃建築のコンクリート校舎にして、水洗トイレや最新式の理科室など、小学生の教育環境を重視したのは建築構造学の基礎を築いた佐野利器の強い提案だった。

園もつくられた。これらによって、大中小の公園群が下町に配置された。公園群を結ぶ緑のラインとなる街路樹も幹線街路に植えられた。水路網も、江戸からの屈曲した線形が直され、川幅なども統一された。下町には水と緑のネットワークが形成され、橋詰広場は緑の結節点でもあった。

これだと計画者や好事家の単なる自己満足に終わってしまう。しかしこれに終わらなかつたのが帝都復興事業であり、計画者たちであった。当時は水上バスもあり、橋詰広場が水上バスの発着場であり、橋の袂には都電やバスの停留所があった。水路と陸上との交通の結節点にな



手前からお茶の水橋、聖橋、奥に松住町架道橋
アーチ橋の聖橋と桁構造のお茶の水橋とは、対比的な橋梁景観をつくり出している。総武線は、復興事業で隅田川を越え、お茶の水まで延伸された。そのとき御茶ノ水駅は現在地に移された。

盛んで行き交う船が多く、交差部では船が右折・左折した。トラス橋にすることで、橋脚のないワンスパンの橋を架設できた。船の交通安全を考えてトラス橋にしたのである。

中小河川と隅田川とが合流する箇所も同じことが言える。しかしここでは、橋のゲート性を意識して、各河川の第一橋梁は、デザインのうちがアーチ橋を架設した。アーチ橋は美を演出し、デザインを変えたのは、橋をみれば、船頭さんが自分の入る河川が一目でわかるサイン効果も考えた。

下町の橋全体のヒエラルキーも考えられた。皇居から遠ざかるにしたがって、橋の装飾やデザイン密度が落ちていくのである。皇居の内堀には伝統的な擬宝珠付きの木橋が架設された。材料は節ひとつない柁目材である。費用は、鋼やコンクリートより高価であった。

しかし橋の配置計画はこれだけではなかった。まず、橋詰広場があげられる。橋には四カ所の橋詰広場があり、復興橋梁は四二五橋架設されたので、単純計算すれば、四二五×四＝一、七〇〇カ所の橋詰広場が設けられた。主要な橋詰広場には、橋詰の三大施設である交番、トイレ、消火器具納庫が設置された。

また下町には、復興小学校に隣接した復興公園が五二カ所つくられた。公園は授業中は小学校の運動場として使用され、放課後は地域住民に開放された。隅田・浜町・錦糸の復興三大公

っていたのが、橋詰広場なのである。

しかも復興事業の合言葉は、「復興は橋より」であった。機能的デザインにも美しい橋をつくれれば、街の建物もそれにあわせて美しい建物ができ、美しい街並みが形成されると考えたのである。実際、橋の親柱や高欄・橋灯などのデザインはアール・デコ様式でつくられ、市街地にもアール・デコ様式の建物が数多くつくられた。東京は空襲で焼け野原になるまでは、世界的にもまれなアール・デコの街であった。戦災によって建物は失われてしまったが、幸い橋は焼け残り、今でも当時の様子をうかがうことができる。

個々の橋のデザインがバラバラにあるのではなく、下町の橋全体のトータルデザインがあり、それに基づいて一つひとつの橋のデザインがある。橋のタイプをみれば、下町の地域性がわかる。「水の都」は影が薄くなったが、東京はまれにみる「橋の都」なのである。

世界遺産の価値基準「(ii) 建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すもの」に該当するのが東京の橋の配置計画であり、東京の都市計画なのである。

以上のようなシナリオで、東京下町の橋と都市計画を暫定遺産候補に立候補するのはいかがだろうか。

盛んで行き交う船が多く、交差部では船が右折・左折した。トラス橋にすることで、橋脚のないワンスパンの橋を架設できた。船の交通安全を考えてトラス橋にしたのである。

中小河川と隅田川とが合流する箇所も同じことが言える。しかしここでは、橋のゲート性を意識して、各河川の第一橋梁は、デザインのうちがアーチ橋を架設した。アーチ橋は美を演出し、デザインを変えたのは、橋をみれば、船頭さんが自分の入る河川が一目でわかるサイン効果も考えた。

下町の橋全体のヒエラルキーも考えられた。皇居から遠ざかるにしたがって、橋の装飾やデザイン密度が落ちていくのである。皇居の内堀には伝統的な擬宝珠付きの木橋が架設された。材料は節ひとつない柁目材である。費用は、鋼やコンクリートより高価であった。

しかし橋の配置計画はこれだけではなかった。まず、橋詰広場があげられる。橋には四カ所の橋詰広場があり、復興橋梁は四二五橋架設されたので、単純計算すれば、四二五×四＝一、七〇〇カ所の橋詰広場が設けられた。主要な橋詰広場には、橋詰の三大施設である交番、トイレ、消火器具納庫が設置された。

また下町には、復興小学校に隣接した復興公園が五二カ所つくられた。公園は授業中は小学校の運動場として使用され、放課後は地域住民に開放された。隅田・浜町・錦糸の復興三大公